

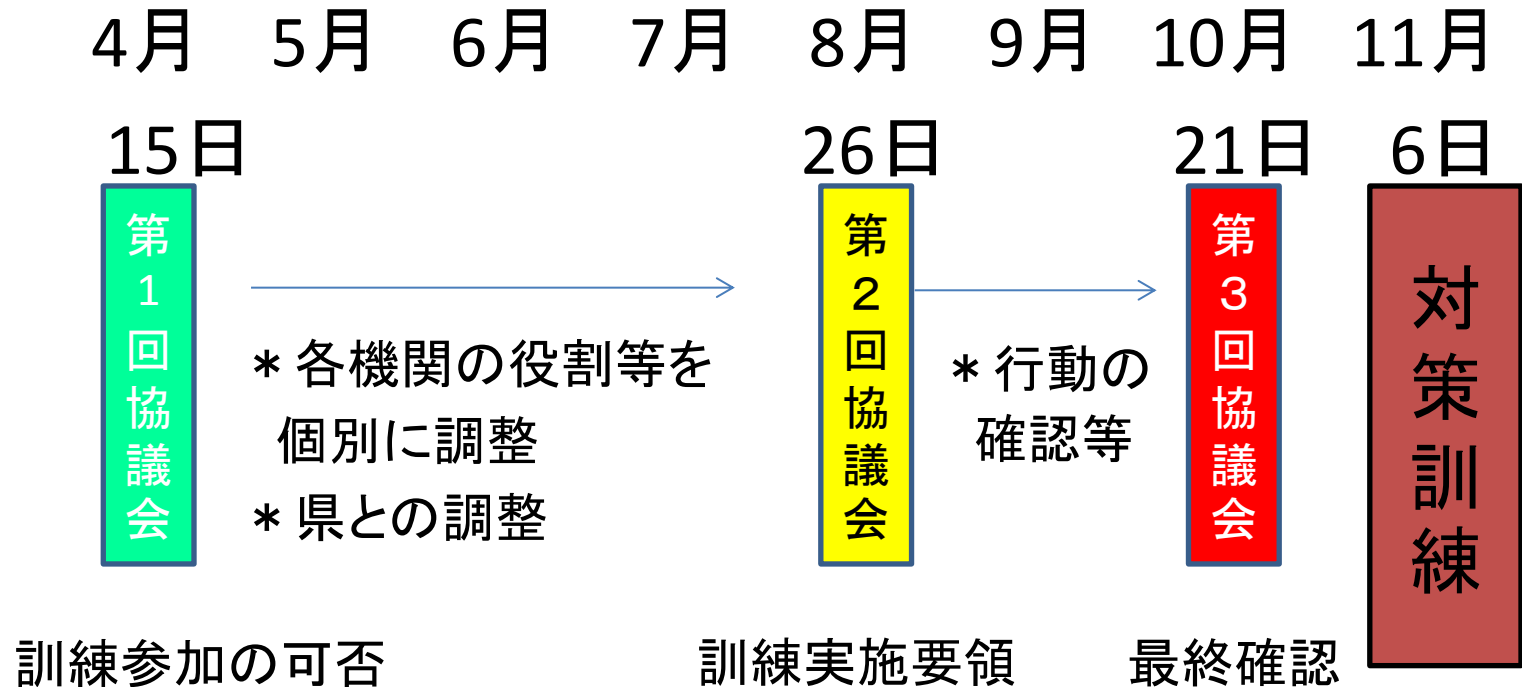
【参考資料1】

# 平成28年度 津田沼駅周辺 帰宅困難者対策訓練実施要領

平成28年8月26日

津田沼駅周辺帰宅困難者等対策協議会

# 訓練開始までの準備



\* 本番までに3回の協議会を実施し、段階的に準備を推進する。

## 訓練日時

11月6日(日)

10:00~13:00

# 訓練場所

- JR津田沼駅、京成津田沼駅、新京成新津田沼駅
- 千葉工業大学、ホテルメッツ津田沼
  - \* 習志野文化ホールは、情報連絡訓練のみ参加
- 習志野市役所（災害対策本部としての活動）
- 大型商業施設、避難場所となる学校は、其々の  
場所で情報連絡訓練に参加
- 津田沼駅周辺から一時滞在施設までの道路等
  - \* 津田沼公園（モリシア前広場）、千葉工業大学

# 訓練参加者

## ■主催者全体で約300名

- 県職員 約 10名
- 市役所職員 約150名
- 協議会 約140名

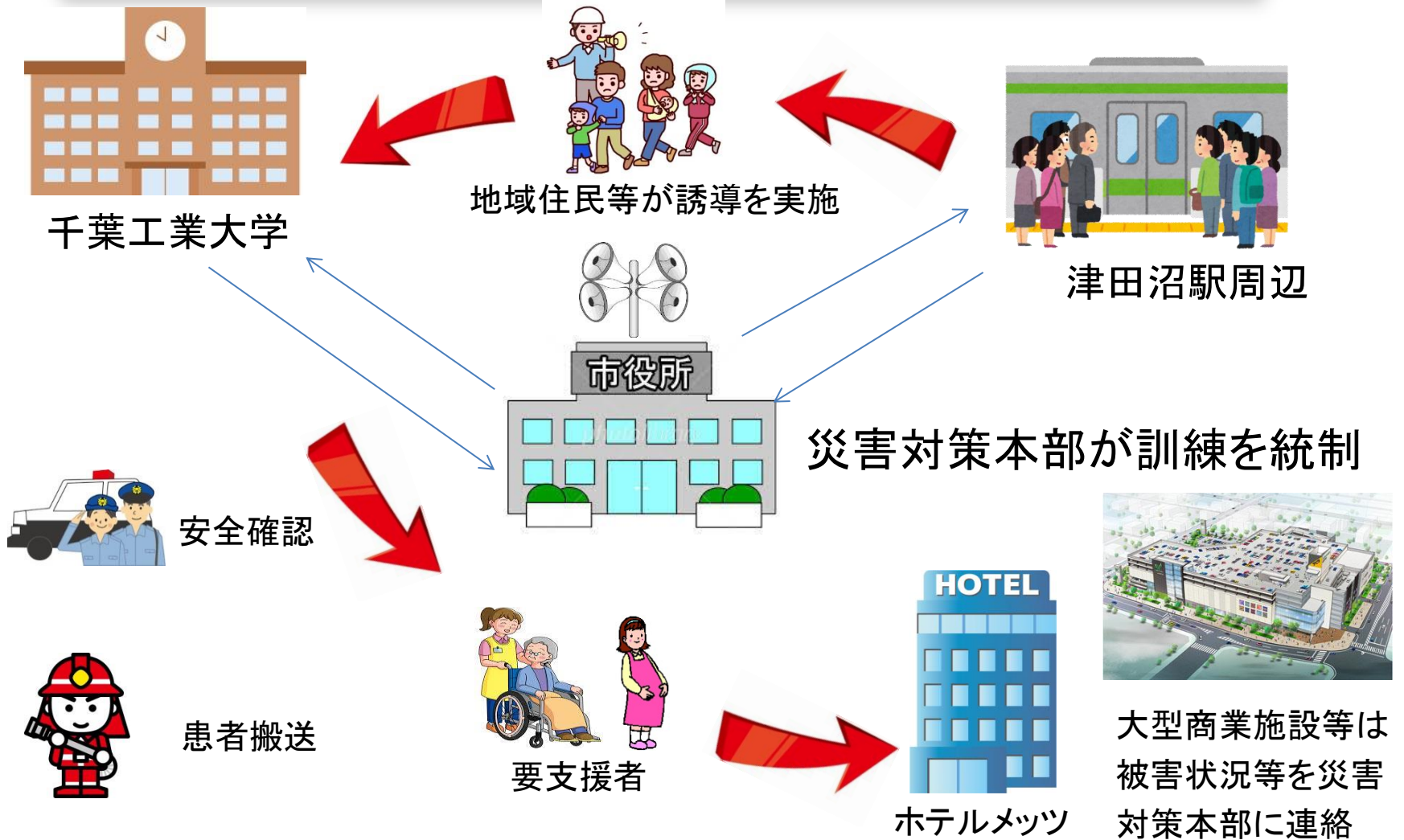
## ■一般参加者が約120名

- 学生ボランティア約10名
- 自主防災組織 約100名
- 研修者 約10名

# 訓練想定

- \* **東京湾北部地震**を想定地震とする。
  - 11月6日(日) 午前9時に発災
  - M7.3(深さ約20km)
  - 習志野市は震度6強の揺れ
  - 鉄道は運行停止、復旧の見込みは未定
    - 県内に約20万人の帰宅困難者(推定)
    - 津田沼駅周辺に**約2千人の帰宅困難者**

# 訓練要領のイメージ



【参考資料2】

# 訓練における協議会各機関の役割

平成28年8月26日

津田沼駅周辺帰宅困難者等対策協議会



# 鉄道事業者の役割



- 約300名の帰宅困難者等の安全確保
- 運行状況等の説明
- 災害対策本部との連絡
- 一時滞在施設の状況説明
- 施設内の誘導
- トラブル対処
- その他

# 一時滞在施設の役割



- 約300名の帰宅困難者の受け入れ
- 正門→施設までの誘導
- 施設説明(使用上の注意)
- リーダーの選出
- 災害対策本部との連絡
- 要支援者に対する処置  
→支援者の確保  
→移動移送

# 大型商業施設等の役割



大型商業施設等

- 災害対策本部への連絡
- 【可能な範囲で】
- 館内放送による帰宅困難者等の抑制
  - 施設点検等
  - 負傷者等の救護
  - お客様の安全確保
  - フードコート等の時間延長

# 町会等の役割



町会・自治会等

- 訓練参加者の確保
  - 帰宅困難者要員(約40名)
  - 誘導要員(約10名)
- 帰宅困難者の誘導
- トイレなどの施設の開放
- 負傷者等の救護支援
- その他

# 学校等の役割



避難所となる学校等

- 災害対策本部との連絡
  - 情報提供
  - 情報入手
- 災害対策本部からの要請に対する対応

# 市役所の役割



災害対策本部

- 災害対策本部として訓練を主導
  - 情報提供
  - 情報入手
- 参加機関からの要望や情報要求に対応
- 防災行政無線、メール、電話等の連絡手段を活用

# 学生ボランティアの役割



千葉工業大学

千葉工大からホテル・メッツまで  
要支援者等の移動支援



ホテル・メッツ

